

立憲民主党は、
由利本荘市議会議員
補欠選挙において
あわのきほさんを
公認決定しました。

あわのきほ

Awano Kiho

PROFILE 栗野 希穂

1995年 由利本荘市生まれ。鶴舞小学校、本荘南中学校、由利工業高等学校機械科卒業後、聖霊女子短期大学 生活文化専攻 文化コミュニケーションコースに進学。卒業後は京王百貨店、羽後信用金庫へ勤務。2024年 政治から地域を変えていこうと決意し、政治活動を開始。子育て支援団体“おさがりっこ”を設立し副代表。得意なスポーツはバドミントン。

初めまして。由利本荘市出身、平成7年生まれのあわのきほです。

私は就職を機に一度本荘を離れましたが、結婚・出産を経て「やはり自分が育ったまちで子育てをしたい」と強く思い、由利本荘市に戻ってきました。せっかく帰ってきたのなら、「大好きなこのまちに恩返しをしたい」と考え、地域経済を支える方々を支援するために羽後信用金庫に入庫しました。

日々、地域の声を伺う中で「もっと市政に関わり、市民の思いを直接形にしていきたい」という気持ちが膨らんでいきました。そんな時、小川のりよ元市議、岡見よしと元市議と出会い、ご指導をいただく中で、市政の重要性を実感しました。

私はこれまで、岩手県北上市・奥州市、三重県四日市市、東京都武蔵村山市で子育てを経験しました。他の地域を見て、「由利本荘市にもあればいいのに」と思うことが多々あり

ました。これらの経験を活かし、子育てがしやすいまちづくりを進めたいと考えています。

また、由利本荘市を支えてこられた先輩方が、退職後も安心して暮らせるよう、福祉の充実にも力を注ぎます。物価高が続く中、働く皆様の努力がしっかりと報われる社会を実現し、県外へ出た方々にも「やっぱり子育ては由利本荘市で」と思っただけのようなまちを目指します。

さらに、人と人とのつながりを大切にする教育を推進し、由利本荘市を築いてこられた先人たちの知恵や経験、伝統・文化を子どもたちに受け継いでいくことも必要です。公助の力を活かしながら、共助の心を取り戻し、皆様とともに由利本荘市の未来を築いていきたいと思っています。

由利本荘市の発展のため、全力で取り組んでまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

あわのきほが取り組みたいこと

- 〈子育て・教育〉
1 安心して子育てができる、未来を育むまちへ
- 〈産業〉
2 自然の恵みで未来を拓く産業のまちへ
- 〈福祉・健康〉
3 健康と安心が広がる、由利本荘市へ
- 〈経済〉
4 家庭も仕事も大切にできる、誰もが輝くまちへ
- 〈まちづくり〉
5 地域資源を未来資源に。みんなで創る由利本荘市
- 〈若者の政治参加を促すために〉
6 若者の力で、由利本荘市に新時代を



私たちも、あわのきほさんを応援しています。



立憲民主党秋田県連代表
衆議院議員

緑川たかし

育児、仕事の傍ら、子どもの遊び場の提供や子ども服のおさがり交換会の運営に携わり、子育て世代の声に向き合ってきた栗野さん。信用金庫職員時代の外回りの経験もあり、現場をこまめに歩いて様々な意見に耳を傾けようとする実直な人柄です。二児の母として、子どもの健やかな育ちへの当事者の不安や悩みに寄り添い、住み慣れた場所で安心して余生を過ごしたいという住民の思いにも直接ふれながら、まちの現状を変えていこうとしています。ファミリーサポートセンターなど、子どもの一時預かりを

地域で相互援助できる体制づくりや塾代の補助金制度の導入、空き家・空き地を活用した起業支援や地域の居場所づくり、仕事と子育て・介護の両立に向けたリモートワーク・フレックスタイム制度などの就業環境整備と中小企業の経営支援など、現場の声を集めた政策の実現に向けて全力で取り組んでいます。一人ひとりが挑戦を続け、生きがいをもって過ごせる由利本荘市の実現のため、栗野さんの思いが市民の皆様が届くよう心から祈念しております。

立憲民主党秋田県連 事務局長
(前由利本荘市議会議員)

岡見善人

「私、この街が好きだから市議会議員として市政に関わりたい」
3年前、当時私が所属していた由利本荘市議会の会派が開催したワークショップにおいて、初めてお会いした栗野さんから聞いた言葉です。
当時参加されていた数十名の中でも突出した若さでありましたが、「由利本荘市にもこのような『志し』を持っている若者っているんだな。捨てたものではない」と感心したものでした。
私が市議会議員としての経験を通じて確信したことは、議会力とは、「性別」、

「年齢」、「職業」、「専門性」など幅広く、まさに多様性の結集体があつてこそその力は高まっていくものであり、その意味では、現在ふたりの子育て真っ只中の30歳女性であればこそ、議会を活性化に導く存在だと自信を持って言えます。
人口減少に立ち向かう若きリーダーになるべく、「あきらめない挑戦が未来をつくる」を確かなものにするため、どうか皆さん栗野さんの訴えに耳を傾けてください。きっとこの後に続く若者の鏡となってくれることでしょう。



立憲民主党秋田県連幹事長代理
(前由利本荘市議会議員)

小川のりよ

私の選挙のとき、一生懸命、頑張ってくれたのが栗野さんです。
人生でイベント事が多い20代・30代、子どもの成長と向き合う大事な時期にこのような決断をしてくれたこと、とてもうれしく思っています。
栗野さんが街宣活動でマイクを持つと「朝7時半、保育園に子どもを預け、夜7時まで働き、保育園に迎えに行く。給与は地方と都市部、企業間でも格差があり、働く環境を改善しなければ苦しい生活のまま」と、自分事として社会課題に目を向け、発する言葉に感動しました。

商店街で育ち、地方経済を支える金融機関に就職したときから地域への想いがあふれています。
一方、政治家の性別に目を向けると、秋田県内には女性首長がおりません。由利本荘市議会議員20人中、女性は3人です。“リーダー＝女性”という印象が薄いのでしょうか。“政治は男性がするもの”という刷り込みがあるのでしょうか。私は【同年代の政治家がいる】【意思決定の場に女性が一定数いる】ことで地域に希望を感じます。地域をより良くしたいという栗野希穂さんに期待しております。